

午後 試験

いずれの問もシステム管理やシステム運用の実務でしばしば発生する事象がテーマであり、受験者にとって取り組みやすかったようである。論述内容からは、作業を確実に実施しているものの、計画立案や評価の視点が不足していることが伺えた。日ごろから、システム管理エンジニアとしての視点を意識して、業務の遂行に当たることを期待したい。

問 1（サービス開始に向けて開発部門と連携して実施した準備作業について）では、開発部門と合意を形成し、それに基づいて準備作業を実施するというプロセスについて論述することを求めた。準備作業を実施する過程で発生した問題と解決については具体的な論述が多かったが、開発部門との合意については、内容の妥当性や説得力に欠けるものや、全く触れていないものが見受けられた。開発部門との合意形成を主体的かつ積極的に進めた経験がないと、この部分の論述は難しかったと思われる。

問 2（情報システムの管理・運用上の課題への暫定対策及び本対策について）では、課題に対する段階的な対応について論述することを求めた。対策内容の説明に終始し対策の検討経緯を論述していないものや、対策の適切さを十分に論述できていないものが見受けられた。これは段階的対応を実施した経験はあるものの、段階的対応を検討した経験が不十分であることに起因するものと推測される。

問 3（作業ミスによる障害発生防止について）では、障害管理の一環として作業ミスの防止について論述することを求めた。受験者の選択率が高く、作業ミスの防止が身近な重要課題であることが伺えた。複数の対策を単に説明するだけで、重要と考えた理由を論述していないものが見受けられた。心理面や組織環境面などからの検討や、対策を継続することの重要性などについて踏み込んで論述したものはほとんどなかった。